

日本洋書協会会報

BULLETIN OF JAPAN ASSOCIATION
OF INTERNATIONAL PUBLICATIONS

目次

●理事長挨拶・理事会報告	1
●新春雑感	2
●委員会報告	4
●International Book Fair in 2013	5
●KeikoのNY通信	6
●楽譜のオハナシ	7
●“坂の上の雲”英訳版出版企画	8

理事長挨拶

新年おめでとうございます。

皆さまにおかれましてはつつがなく新しい年をお迎
のこととお喜び申し上げます。

年頭に当たり JAIP 会員の皆様には、新年のご挨拶を
申し上げます。

ご承知の通り、最近日本国内では日本語対応の電子
書籍専用端末数多く市場に出回っております（ア
マゾン・キンドル、ソニー・リーダー、シャープ・
Galapagos、楽天 kobo Touch 等々）。現時点でのデ
ジタルコンテンツは、コミックの分野が先行してお
りますが、今後はかなりのスピードで小説をはじめ
とする一般大衆向に向けに留まらず、学術の分野で
も提供されるものと予想されます。

2013 年の学術市場では、STM に留まらず人文社会
の分野におきましてもオンラインブックの波が一段
と激しく押し寄せてくるものと思われます。当学術
の分野では、デジタル化が一層進みつつあり、今や

外国雑誌取扱店の役割は、従来の流通事業から、出
版社とユーザー間を介在するコンテンツ・ライセン
シング事業に変貌しつつあるといっても過言ではあ
りません。このようなデジタル化の進展は雑誌と書
籍という出版形態の境目をなくしつつあるようにも
感じられます。

今後とも JAIP では、人文社会・一般書を取り扱っ
ている会員の方々も対象に幅広く、勉強会やセミ
ナーなどを企画してまいります。ご意見、ご要望等
ございましたら事務局を通じ連絡頂きますようお願い
申し上げます。

既にお知らせしておりますが、本年は新たな方法で
の理事選出選挙が行われます。新旧の理事一同力を
合わせて当協会の益々の発展に寄与できればと思っ
ております。

皆様会員一同のご健勝とご発展をお祈りしつつ新年
の挨拶とさせていただきます。

理事会

2012 年 11 月 28 日（水）

1. 2012年度予算推移状況

事務局から9月までの半期終了時点での報告が
なされ、特に大きな差異は無く、了承された。

2. アンケートの実施について

総務委員長から原案が提示され、内容について
了承された。実施に付いては来年の選挙時に行
うこととした。

3. 選挙関連

選挙管理委員長に小松崎敬子氏（絵本の家）が
就任。委員は選任中。

12月11日に第一回委員会を招集する。

4. 理事長から

・オンライン商品の不課税から課税への動きに
付いて、セミナーの講師を探して
欲しい→丸善に依頼した。

またグレッシャム理事からの「電子ブック」
に関するセミナーも検討することとした。

・会報、ダイレクトリーの紙媒体での発行は続
けることとした。

・仲理事（雄松堂・前理事）の行った国会図書
館見学会は引き続き行うこととした。

新春雑感

副理事長：宮川 修（日本出版貿易 株式会社）

明けましておめでとうございます。日本経済は昨年末に野田首相が突然、衆議院の解散を明言したことで東京市場は一変し、一気に株高・円安が進んだ。政権が交代しても経済政策、外交・安全保障、原発問題、消費税、環太平洋経済連携協定（TPP）等、多岐にわたり問題は累積しており、新政権の政策遂行力が問われ、日本の活性化に向けた新政権の舵取りに期待したい。さて、長年に亘り協会理事をさせて頂きましたが、今年度で任期を全うする事となりました。在任中は皆様に大変、お世話に預かり改めて、厚くお礼申し上げます。また、今年度は副理事長の要職を拝命いただきましたが、実際の運営は、山川理事長に一任の状態で大変、申し訳なく思っております。理事選挙規約の改定により、次回の選挙にて3社の新理事が誕生いたしますが、業界はAMAZONを中心とするNet業界の進出で価格、スピード、情報共に遅れをとり、Kindle Paperwhiteを中心としたタブレットによる電子書籍事業は、コンテンツ、価格問題など解決すべき課題は沢山ありますが、今以上に普及して、業界の縮図が変貌する事が予想されます。新理事長を中心とした新体制により、協会が一致団結してこの難局に立ち向かい、業界の活性化、繁栄に向けて取り組んで頂きたいと考えておりますので宜しくお願い申し上げます。

最後に、会員各社皆様の益々のご発展とご健勝を祈念申し上げます。

理事：土方 裕之（丸善 株式会社）

新年あけましておめでとうございます。昨年、この新春雑感を書いて、まもなく体調を崩し、半年ほど理事としての仕事を休ませていただきました。会員の皆様には、大変ご迷惑をおかけしました。新年は、神社で厄払いをしっかりして、今年は元気で過ごしたいと思っています。

さて、書籍をとりまく環境は大変厳しく（毎年言っておりますが）、「新文化」の資料によると、書籍の販売動向は、2002年から2011年の10年間の書籍の実売金額の比較で約14%減、雑誌の実売金額では約28%減、という厳しい状況が継続しています。一方、同資料によると、大学図書館の資料費は、5年間で3.3%ダウンとされており、海外の学術出版社の日本における実績がほぼ横ばいという話もあり、

小売書店の厳しさから比べれば、比較的穏やかな状況にも見えます。しかしながら、来年度以降は、大学の予算は一層厳しい状況になるというのが、業界内での観測となっております。

一方で、先般、公共図書館の貸し出し冊数が、3年前の調査時より5%増加し、一人当たりの貸し出し冊数は、史上最多の5.4冊/人という調査結果が新聞紙上に掲載されました。開館時間の延長や貸し出し冊数の上限の引き上げによるものとされていますが、読書需要が必ずしも減ってはいないということです。米国では、電子書籍が牽引し、紙の書籍も含めトータルで読書量を増加させているという状況もあるようです。日本では、電子書籍端末の競争激化とともに、今後の電子書籍の動向と紙媒体書籍への影響が懸念されていますが、起こっている流れに逆らうのではなく、いかに紙と電子でプラスサムに持ち込んでゆくのか、そのために知恵を出し、工夫をすることが、現実的であり、むしろ明るい展望が持てるような気がします。

また、先般、「図書館総合展」でいくつかのセミナーを拝聴しましたが、今後の大学図書館の在り方や、教科書や教材をはじめ、電子化を起点にした新たなビジネス創出の可能性は十分にあるように思われました。より一層の勉強が必要だと認識しました。

時代は、大きく潮目を変えようとしています。こういう時はあまり、目先の波の動きだけを追いかけても全体像がつかめないような気がします。厳しい時代だからこそ、心に余裕をもって、じっくり潮の流れを追いかけてねばならないのだと思っています。

洋書協会も新しい制度を採り入れ、新年早々には、役員選挙が行われ、理事会メンバーも大幅入れ替わることになります。2年間理事としてお世話になりました。最後に、会員各社の皆様の今年1年のご健勝を祈念申し上げます。

理事：鶴 三郎（株式会社 東亜ブック）

皆様 新年あけましておめでとうございます。

レクリエーション委員会（旧：文化厚生委員会）の理事として数年間皆様と一緒に活動できたことを心よりお礼申し上げます。

昨年も新年賀詞交換会（1月）、サマーパーティー（7月）、関西懇親会（9月）ゴルフコンペ（年2回）、ボウリング大会

(年4回)、麻雀大会(年2回)の開催を皆様の多数のご参加、ご協力によりどの開催も盛大に行うことができました。レクリエーション委員会の企画としてご参加される方々が各企画を楽しみ、皆様同士で会話し、情報・意見交換ができる場所としてあってほしいと思います。

今後も何らかの形で皆様のお役に立てれば光栄です。

2013年も皆様にとりまして、すばらしい年となりますことを心からご祈念申し上げます。

理事：Mark Gresham(United Publishers Services Ltd.)

Some years ago a “popular” expression in Japanese was the “3Ks” – Kitsui, Kitanai, and Kiken. In our business in Japan in 2012 it has become the “2Ks” – Kobo and Kindle. Television advertising as well as entire carriages on the Yamanote Line have been dedicated to promoting these two e-readers. Still, I wonder where we are in the adoption cycle of this “new” technology. There is the real possibility that the consumer market for e-books will grow by leaps and bounds in the coming months in Japan, but it will greatly depend on whether there is enough Japanese-language content to satisfy those consumers. While there are hundreds of thousands of ebooks in English and other languages, in the end, the paradigm shift will not be led by the availability of English books. I continue to ponder the reasons why it’s not happening as fast here as elsewhere. Is it an issue of having warehouses full of printed books that need to be sold first (or written off with a great effect on companies’ profit and loss statements?) Or is it, perhaps, a cultural affinity to “paper”? Library purchases of academic ebooks still seem to be mainly toward the end of the budget year as a way of using up “left-over” funds rather than motivated by any real need or desire to move from print to digital. The future is in some ways already here (magazines, newspapers and manga) but in others it seems a long way off. I continue to say to the publishers we represent “not quite yet” when I’m asked about the market for academic ebooks here. But, as I said last year in this same space, we must continue to prepare for and be aware of the changes that are coming… for, indeed, they

are coming. Maybe 2013 will see the tipping point. Or maybe not. Happy New Year.

理事：雨宮 良宣(株式会社 雄松堂書店)

新年あけまして、おめでとうございます。

会社の業務分担の変更がありまして、昨年7月から仲に代わり理事をお引き受けしましたが、初めての経験でもあり右も左もわからないまま、仕事もせずに新年のご挨拶になってしまい、申し訳ありません。残された任期は数か月ですが、少しでもお役にたてるように努める所存です。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

元理事：仲 光男(株式会社 雄松堂書店)

新年おめでとうございます。

昨年7月、二期目の途中でしたが、理事(文化・教育担当)を退任させていただき、小社取締役、雨宮良宣と交代いたしましたので、よろしくお願いします。在任中は会員の皆様のお役にたつような事は何も出来ず、山川理事長はじめ理事会・監事の皆さまには、いろいろと教わる事が多く、貴重な体験をさせていただき感謝の気持ちでいっぱいです。

3年間という短い期間でしたが、協会設立70周年の記念講演会や、例のDB不課税問題などいろいろな出来事がありました。東日本大震災による甚大な被害と放射能汚染の深刻な問題は、日本の社会経済、そして文教関係にもいろいろな影響がでてまいりました。文科省の大学に対する予算の配分も「世界に雄飛する人材の育成(4億)」、「新時代を拓くグローバル人材育成のための大学改革(120億)」、「私立大学教育研究活性化設備整備事業(31億)」のように、これまでにない新規予算が目玉として組まれ、グローバル社会で活躍できる人材育成や環境・エネルギー、医療など成長分野に特化した新規事業が目につきます。これらはほんの一例にすぎず、これまでのようなバラマキ型から集中投資型予算へと変化してきています。現代社会が高等教育に何を求めているのか?それを受けて、文科省がどの方向に向かっているのか?私たちは学術情報をビジネスとして取り扱う以上、国の予算の変化をきちんと読みこんだ対応が必要でしょう。

今年のお正月は9連休の人が多いのではないのでしょうか? 自宅でゆっくりお正月を過ごされる方には是非お勧めしたい本があります。岩谷英昭『松下幸之助は泣いている』(朝日新書)、筆者は米国松下で40年間海外営業を担当し、現場叩き上げから社長・会長を務められ、現在は母校

明治学院大学の常務理事としてご活躍であり、日本人の顔をした米国人ともいわれています。ものづくり日本代表の家電が、デジタル化による環境激変に対応できず、窮地に直面している家電復活の方策が説かれ、洋書業界とも重なるところがあり参考になりました。本当の意味のデジタル化・グローバル化を教えてくれる本です。

理事：松村 達生（センゲージラーニング 株式会社）

新年明けましておめでとうございます。本年も協会の皆様にとって良い一年でありますよう祈念申し上げます。私は推薦理事として、2011年8月から理事会などに参加させていただき、これまでで1年4か月程度の在任期間でした。それまでは、洋書協会への参加といえば、懇親会やTIBFのバーゲンに参加させていただく程度でしたので、業界の中で洋書協会がどのような役割を担い、委員の皆様がどの

ようなお仕事をされ、どのように運営されているのかということを経験させていただき、良い機会でした。そこで感じたことは、業界の大先輩の皆様が熱意をもって、ボランティアワークをこなし、協会の70年以上の歴史を支えているのだなということでした。今回、理事として理事会に参加させていただいたことは、業界歴13年という私にとっては、非常に意義のある経験でした。在任期間中に私自身で具体的に何か貢献できたかと問われると、SIGの講師を務めたぐらいしか思い浮かびませんが、業界に対して貢献したいという思いが湧き上がってきたことは、確かです。今回の改選は、制度変更があり、新任で理事に選ばれる方々もいらっしゃると思いますが、本当に良い経験となりますので、積極的に参加されることをお勧め致します。今後ともよろしくお願い申し上げます。

委員会報告＜レクリエーション委員会＞

第18回 JAIP ボウリング大会

2012年11月14日(水)

会場：ロサボウル(池袋)

参加者：15名(6社) 男性13名 女性2名

競技：3Gのトータルピン

(ハンディキャップあり：平均150として算出)

順位	氏名	会社	総得点	1G	2G	3G	AVG	HDCP/G
1	和田 聡	ネリーズ	502	108	158	158	141.3	26
2	佐藤 隆	日本出版貿易	487	164	134	135	144.3	18
3	佐藤 圭	ユサコ	485	139	108	142	129.7	32
4	山中 玄致	ユサコ	480	186	144	150	160.0	0
4	寺尾 雅人	日本出版貿易	480	160	157	136	151.0	9
6	鶴 竜次	東亜ブック	468	141	123	162	142.0	14
7	堀越 勝喜	日本出版貿易	460	108	143	152	134.3	19
8	平野 覚	ユサコ	457	137	174	191	167.3	-15
9	天野 秀是	日本出版貿易	452	99	138	143	126.7	24
10	松本 恵	ユサコ	431	101	127	92	106.7	37
11	井上 昌哉	大洋交易	414	162	134	97	131.0	7
12	アンドリュース アーチャー	ネリーズ	413	102	91	85	92.7	45
13	小向奈保子	絵本の家	402	110	129	91	110.0	24
14	植原 英男	日本出版貿易	378	123	119	106	116.0	10
15	野本 晃	日本出版貿易	375	97	113	99	103.0	22

ハイスコア男性/G 平野 覚(ユサコ) 191

ハイスコア女性/G 小向 奈保子(絵本の家) 129

優勝者のコメント

今回は過去のスコアが低く、ハンディキャップのおかげで優勝できただけなので、うれしさと同時に少し気が引ける思いであります。毎回、ボウリングだけでなく、協会の方とお話できる場としても楽しみにしておりますので、次回も是非、宜しく願い致します。

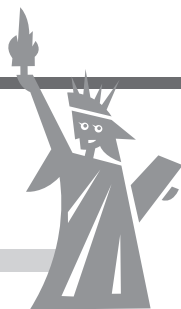
(ネリーズ和田)

次回は2月に開催予定です。



International Book Fair in 2013

Name of Fair	Date	Place	website/e-mail
Taipei International Book Exhibition	30/01/2013 – 04/02/2013	Taipei	http://www.tibe.org.tw info@tibe.org.tw
Abu Dhabi International Book Fair	24/04/2013 – 29/04/2013	Abu Dhabi	http://www.adbookfair.com/ info@adbookfair.com
Leipzig Book Fair	14/03/2013 – 17/03/2013	Leipzig	http://www.leipzig-buchmesse.de info@leipzig-buchmesse.de
Salon du Livre Paris	22/03/2013 – 25/03/2013	Paris	http://www.salondulivreparis.com livre@reedexpo.fr
Bologna Children's Book Fair	25/03/2013 – 28/03/2013	Bologna	http://www.bookfair.bolognafiere.it dir.com@bolognafiere.it
London International Book Fair	15/04/2013 – 17/04/2013	London	http://www.londonbookfair.co.uk LBFTeam@reedexpo.co.uk
Seoul International Book Fair	19/06/2013 – 23/06/2013	Seoul	http://www.sibf.or.kr/eng/ danapark@kpa21.or.kr
BookWorld Prague	16/05/2013 – 19/05/2013	Prague	http://www.bookworld.cz info@svetknihy.cz
Warsaw International Book Fair	16/05/2013 – 19/05/2013	Warsaw	http://www.bookfair.pl/ mtk@arspolona.com.pl
BookExpo America	30/05/2013 – 01/06/2013	New York	http://www.bookexpoamerica.com inquiry@bookexpo.america.com
Special Libraries Assn. Annual Conference	09/07/2013 – 11/07/2013	Chicago	http://www.sla.org sla@sla.org
American Libraries Assn. Annual Conference	27/06/2013 – 02/07/2013	Anaheim, CA	http://www.ala.org ala@ala.org
Tokyo International Book Fair	04/07/2013 – 07/07/2013	Tokyo	http://www.bookfair.jp tibf@reedexpo.co.jp
Hong Kong Book Fair	17/07/2013 – 23/07/2013	Hong Kong	http://hkbookfair.tdctrade.com exhibitions@tdc.org.hk
Moscow International Book Fair	05/09/2013 – 10/09/2013	Moscow	http://www.mibf.ru mibf@mibf.ru
Beijing International Book Fair	28/08/2013 – 01/09/2013	Beijing	http://www.bibf.net/ bibfmo@bibf.net
Frankfurt Book Fair	09/10/2013 – 13/10/2013	Frankfurt	http://www.book-fair.com/en/fbf/ info@book-fair.com
CIROBE	27/10/2013 – 03/11/2013	Chicago	http://www.cirobe.com info@cirobe.com
Salon du Livre Montreal	20/11/2013 – 25/11/2013	Montreal	http://www.salondulivremontréal.com slm.info@videotron.ca



Charleston Conferenceに参加して

Charleston Conferenceは毎年11月にサウスカロライナ州チャールストン市で開催される学会で、出版社、ベンダー、図書館員、コンサルタントなど、学術情報の流通、収集、利用に携わる関係者が集まり、『Issues with Books and Serial Acquisition』という題目のもと、北米の大学図書館が直面する様々な課題について率直に議論できる場として高く評価されている学会です。1980年にKatina Strauchという一人の図書館員が20名程度でスタートしたこの学会も今年で32回目の開催。総勢約1600名が参加し、3日間 (Pre-conferenceを入れると4日間) に渡る会期中、240にも及ぶセッションが開催されました。学会の参加人数からするとかなりの規模のものです。チャールストンという歴史ある街で開催されるこの学会は、やや商業的イメージの強いAmerican Library Association(ALA)とはひと味異なる、アットホームな雰囲気を感じるものでした。

私は学会前日に開催されるVendor Showcaseから参加しました。通常、ALA等では会期中を通して展示期間が設けられていますが、チャールストンではPre-conference当日の1日だけがそれに割り当てられています。今年は94の出版社及びベンダーが出展し、各社にテーブル1つずつが割り当てられ、展示会場となったホテルのボールルームを埋め尽くしていました。出展者の数からするとやや手狭に感じる展示会場でしたが、逆にそのような空間であったからこそ親しみを持って図書館員の方々との建設的な会話を楽しむことが出来ました。

学会自体は基調講演形式で全員が参加できるもの、同時進行で開催されるセッション、ポスターセッション、ライブラリーランチなど、朝の8時から夜の19時近くまで1日を通してびっちりスケジュールが組まれていました。すべてのセッションに参加する必要はなく、独自のスケジュールに基づいて普段顔を合わせることができない顧客や取引先とのミーティングを設定する人も多く、またセッション間の行き来も自由でした。私は初めての参加だったということもあり、ミーティング以外の時間帯はフルにセッションに参加しましたが、さすがに1日の終わりには毎日ぐったりしていました。

基調講演では、研究者のリサーチ方法の変化、大学出版の変貌、自費出版や図書館ローカルホスティング、

電子化と法の問題など、学術情報の世界全体にかかる課題についての講演が行われました。セッションは発表形式のものとパネルディスカッション形式との大きく分けて2つの形式がありました。1ベンダーによるセッションは推奨されておらず、大小異なる大学の図書館員による合同セッションであったり、図書館員、出版社、ベンダーの3者によるパネルディスカッションであったりと、同じ課題について多角的な視点で議論ができるように構成されていることが印象的でした。プログラム上目立ったトピックとしてPDA,DDA,ERM(Electronic Resource Management), discovery, usage等で、電子化の進む図書館の世界を反映すべく「New Role of Libraries」や「Enhancing User Accessibility」など、新しい取り組みを紹介する発表も数多く見られました。私が参加したセッションの中でも出版社が独自の電子ブックプラットフォームを持つことの意義を問うものもあれば、「Do we need ebook aggregators?」とやや挑発的なタイトルをもと、同じ電子ブックの流通について逆の観点から議論するものもありました。スペースの関係上、各セッションの内容*をご紹介することは控えますが、電子ブックの購入プロセスが複雑化している現状を理解し、図書館、出版社、ベンダー各々が学術情報の流通、収集、管理のプロセスの中で明確な役割を持つことの重要性を改めて認識する良い機会となりました。業界の仲間から「Best Conference!」と聞いていたCharleston Conference.The Charlestonの曲を聞きながら学会を思い返し、彼等の言葉に納得です。

* (学会のプログラムや資料についてはウェブサイトでご覧頂けます。<http://www.katina.info/conference/>)

最後に!

ニューヨークにきて丸一年が経ちました。究極の個人主義社会に戸惑うこともありながらもアメリカにおける出版、学術情報社会の動向を学ぶことができ、大変実りある一年でした。

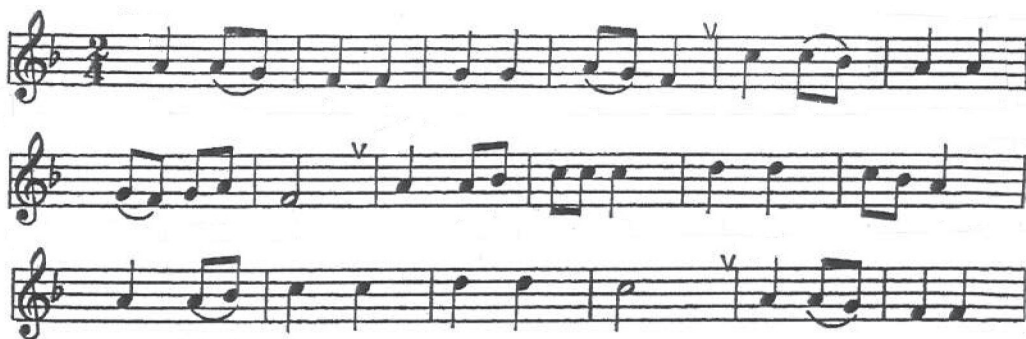
2013年も皆様にとって良い一年となりますように!

平野圭子@ニューヨーク

2012年12月



アカデミア・ミュージック(株) 平岩 寧



この曲はなんでしょう？クイズではありませんが、皆さんは よ〜く ご存じの曲です。そうです御幼少の頃この曲でお遊戯をしたり、大人になってからは、お父さんやお孫さんと歌ったりした方が圧倒的に多いと思います。

前回、数字楽譜の発案者はジャンジャック・ルソーですと書きました、ルソーは哲学者、政治学者としてフランス革命に影響を与えた人物として有名です、しかし彼の活躍の舞台は思想・政治の世界だけでなく芸術にも及び作曲家・音楽理論家として、その足跡を残しています、有名な著作は音楽学者として音楽辞典 (Dictionnaire de musique, Paris 1768) をはじめとして多くの音楽理論書を執筆し出版もされています。作曲家としての作品は120曲余にもなります、1752年ルイ15世の御前で初演された歌劇「村の占い師」は有名です。翌年1753にパリのオペラ座で上演され、19世紀の初めまでオペラ座のレパートリーになりました。その中の曲が流行します、ピアニストで作曲家のクラマー (Cramer, J.B., 1771-1858) はこのメロディーを主題とした変奏曲『ルソーの夢』を書いて1812年に出版し大流行になります。その主題 (テーマ) と言うのが ミー・ミ・レ・ドー・ドー・レー…《むすんで、ひらいて、てをうって、むすんで》なのです。今回の始めに出てました譜例がそれです。このメロディーが1881年 (明治十四年) 頃に音楽取調係によって小学校の教科書に採用されました、しかしその時の歌詞は《むすんで、…》ではなく《見渡せば、あおやなぎ、花桜、…》であったそうです。[教科書『小学唱歌集』全三巻の第一巻にのっています]

ルソーが活躍した18世紀頃、楽譜の印刷出版はかなり盛んになってはいましたが、まだまだ現在のようには簡単に出版できるものではなかったと思います、当時の作曲家は曲を作っても多くの場合そう簡単に印刷出版できるものではなく写譜・浄書と言う手写本が中心で、19世紀になっても手写と云う方法は残っていました。

ルソーは彼自身の信条から王侯貴族の庇護を受けることを避けていたようで、生活の糧の一部として写譜・浄書の仕事をしていたそうです。彼の書いた楽譜は素晴らしいものでルソーが作曲した作品の楽譜は勿論自分で書いていますが、他人から依頼されて写譜・浄書をした楽譜もたくさんありますが、実に綺麗なもので見てほれほれするような楽譜です。ですから、当然多くの人から依頼があったと思います。

さて、やっと楽譜が現在の五線になり複雑な演奏方法も楽譜の上で指示できるようになりました、それが確立するのが17世紀の半ばごろです。印刷機が開発されたのが15世紀の半ばですから、16世紀には文字の印刷物、書籍は大量に発行され数百、数千部の単位になり出版タイトル数も飛躍的に増えました。しかし楽譜の世界では五線と音符 (オタマジャクシ) は文字 (活字) のようにはいかず印刷の職人たちは大変な苦勞をし、工夫を重ねていました。

(つづく)

“坂の上の雲” 英訳版出版企画

株式会社日本文献出版 社主 齋藤純生

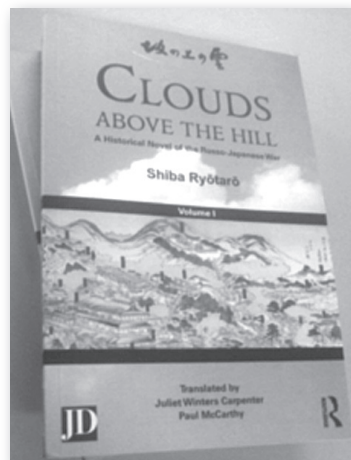
企画の発想

凡そ10年余りを要して刊行に至った“米欧回覧実記”全5巻の完全英訳版“Iwakura Embassy1871-73”は2001年の日本翻訳出版文化賞を受賞しました。採りあげる次の翻訳対象の作品選定に当たり、30点余りの英訳版未刊の名著、古典をその候補に上げましたが、その中で“坂の上の雲”が繰り返し最適の作品として浮上しました。

この司馬遼太郎の作品は、1968年春から1972年夏にかけて産経新聞が紙上連載した長編歴史小説で、やがて6冊の冊子体で1978年初版本として刊行され、1990年に至り文芸春秋社が全8巻の文庫本で出版、今日迄に売り上げ1800万部を超えるベスト・セラーとなりました。そのテーマは、明治中期以降の日本社会の実相を捉え描いた“平家物語”以来の雄大な叙事詩であると申して過言で無いことの確信からでした。

過去に少なくとも2名の翻訳者が登場して居ると伺っておりますが、その英訳原稿は出版には至っておりません。その一人は四国に在住した一オーストラリア人では全訳を果たし、その原稿は講談社インターナショナルに持ち込まれましたが採りあげられる事にはなりませんでした。次に1990年代、国際交流基金が同作品を事業計画として採りあげ、マサチューセッツ大学のウィリアム・ナフ教授が翻訳者として委嘱を受け、2007年時点で全巻の英訳がほぼ完了して居つたと承知しておりますが、同基金はその出版元の索定を果たせず事業の実現には至りませんでした。作品が全8巻に及ぶ超大作である上に、欧米読者層のこの作品に対する関心度を測るに及んで出版事業としての採算上の不確実性が、日米英何れの出版社にとつても企画として採りあげる意図を拒む要因となって居った事は明白でした。

反面大手版元にとつての懸念要因である過大な業務経費と、翻訳書の制作に要するコストは、個人単独で出



版活動に取り組む私にとつてはそれ等経費の負担は軽微であることから、鋭意企画の実現を目指す体制を整える事は可能で早速準備活動に取り掛かりました。

翻訳、編集、監修者の陣容

全8巻に及ぶこの超大作の歴史小説の英訳作業には、数名の翻訳者の配置を要します。然しながら、優れた翻訳技能と豊富な実績を有する著名な翻訳者は極めて少数で、しかもそれ等人材の多くは教職にあり、その上既に受諾済の翻訳作業に取り組中のケースが多く、新たな企画に協力を求めることは容易ではありませんでした。然し乍ら、幸い欧米出版界で知己を得た人脈からの助言を頂き名実共に最高の翻訳／編集スタッフの編成が果たせました。以下がその陣容です。

Paul McCarthy 駿河台大学教授(第1,3巻担当)
谷崎潤一郎、三島由紀夫の作品翻訳者として知名度高い。

Juliet W. Carpenter 同志社女子大学教授(第2,4,5,6巻担当)

近、現代日本文学研究と英文翻訳論が専門。

円地文子、阿部工房、山口誓子、宮都みゆき、野上輝代等の作品を翻訳

Andrew Cobbing University of Nottingham 教授
(第 7.8 巻担当)

1999-2004 年 九州大学で教鞭を執る。

佐賀藩の研究その他日英歴史関連書多数執筆。

“Iwakura Embassy 1871 - 73” 第 3 巻翻訳者

Ms.Phyllis Barnbaum Boston 在住 編集主幹
作家活動のほか編集関連業務に精通。

武智 学 人文社会科学翻訳センター 監閲者
野田 牧人 同上

共同出版の提携先

翻訳作業は出版準備作業の工程に則り順調に進行して 2 年余りが経過した 2010 年、全巻の制作に関わる具体策の検討に入りました。英訳版は全 4 巻で刊行する事となりましたが欧米読者層の当書への関心度に過大な期待が望めない事は明らかです。この司馬作品は歴史小説であり海外で想定し得る読者層の多くは一般有識者であろう事を念頭に置いた上での施策が必須です。そこで制作と配給 / 販売を含め欧米の版元と提携して共同出版する方策が最良と心得、2010 年 Frankfurt Book Fair に出向き、意中の大手 20 社程の米英出版社との折衝を試みる事に致しました。

間もなく、英国で人文社会科学関連書の大手版元である Routledge から早速協議に入りたい旨の意思表示が齎されました。協議は順調に進み 2 ヶ月を経ずして共同出版の成約に達しました。日本文献出版の役割は Routledge に編集済み原稿を提供し、同社が制作、刊行と全世界での販売 / 配給に当る体制が整いました。

刊行に向かって

Routledge と提携出版の約定書が交わされ、制作作業の行程を巡り協議に入りました。英訳版全 4 巻の内、第 1,2 巻は 2012 年末に、そして後半の 3,4 巻は翌年刊行する事が決定し、前 2 巻の編集済原稿は 2012 年

4 月中に Routledge に手渡す事となりました。初版はハードカバー、後にペーパーバックでの刊行を予定して居ります。Routledge へ提供する原稿は英訳本文の他、書中に登場する主要人物の人名リストと用語解説ノートに加え、英語に置き換えられた陸上、海上での交戦マップ等も含まれます。

又、この英訳版が対象とする読者は欧米その他英語圏各国に在る事から、欧米で日本文化と歴史に造詣の深い学者に序文の執筆を依頼する提案が編集者から齎されました。そこで私は早速日本文化研究の権威であり高名なドナルド・キーン教授に執筆を依頼すべく書信の交信を重ねました。氏は来日以来数多くの講演、対談、テレビ出演、原稿執筆等の依頼で忙殺される事態に直面して居り私の要望は叶いませんでした。然しながら、幸いスタンフォード大学で教鞭を執られた日本学研究分野で著名な Peter Duus 教授からその任をお引き受け頂ける事となり、教授執筆の序文 (Introduction) は既に入手済みで、その記述内容は要を得て秀逸の一語に尽きます。

“坂の上の雲” は明治期の歴史的な時代背景と社会全般に互る事象を作品中に登場する数々の人間像を通して克明に描き捉えて居ります。司馬は作品の執筆に当り、事前に採りあげるテーマに関連する膨大なる記録と文献資料を丹念に収集した上で精力的なりサーチを尽くし、自身の抱く歴史観に基づいて物語を展開して居り、教授はこの司馬の作家としての優れて特異な資質を序文で強調しております。又、幸いドナルド・キーン教授からは頭書の読者向け推薦文を頂きました。

この英訳出版事業は企画の発想以来凡そ 8 年余りを経て、漸く制作担当の Routledge (英国) が刊行、世界の読者にお届けする事になりますので、グローバルな英語圏で活躍する多くの日本人にとつても、頭書が生きた英語の習得への一助となる事も併せて願っております。

Shiba, Ryotaro

Birnbaum, Phyllis (ed.)

Clouds above the Hill: A Historical Novel of the Russo-Japanese War.(Routledge)

Vol. 1. 978-0-415-50876-6(既刊) Vol. 2. 978-0-415-50884-1(既刊)

Vol. 3. 978-0-415-50887-2 (11月予定) Vol. 4. 978-0-415-50889-6(11月予定)

Hardback each £49.95

海外出張・海外見本市視察

～格安航空券＋市内ホテルのお得な自由日程旅行プラン～

予約受付中の見本市（2012年12月現在）

★ *BOLOGNA CHILDREN'S BOOK FAIR*

開催時期：2013年 3月25日～3月28日 開催地：ボローニャ（イタリア）
旅行代金：¥199,000～ <3/24出発 4泊6日 モデルパターン>
GRAND HOTEL ELITE 滞在
その他、HOTEL ROYAL CARLTONなどの利用プランがございます。

★ *LONDON BOOK FAIR*

開催時期：2013年 4月15日～4月17日 開催地：ロンドン（英国）
旅行代金：¥149,000～ <4/14出発 3泊5日 モデルパターン>
AMBASSADORS EARLS COURT 滞在

★ *LE SALON DU LIVRE (PARIS BOOK FAIR)*

開催時期：2013年 3月22日～3月25日 開催地：パリ（フランス）
旅行代金：¥149,000～ <3/21出発 3泊5日 モデルパターン>
MERCURE OPERA GARNIER 滞在

★ *BOOK EXPO AMERICA*

開催時期：2013年 5月30日～6月1日 開催地：ニューヨーク（米国）
旅行代金：¥165,000～ <5/29出発 4泊6日 モデルパターン>
HOTELMELA、HOTEL HUDSON 滞在

★ *FRANKFURT BOOK FAIR*

開催時期：2013年 10月9日～10月13日 開催地：フランクフルト（ドイツ）
※視察プラン企画中（手配・お見積もり受付中）
※MOVENPICK MESSE HOTEL など見本市会場付近のホテルを始め、
市内ホテルを多数確保しております。

☆弊社では下記見本市の旅行手配を毎年行っております。

LONDON BOOK FAIR（ロンドン）	FRANKFURT BOOK FAIR（フランクフルト）
PARIS BOOK FAIR（パリ）	HONG KONG BOOK FAIR（香港）
BOLOGNA CHILDRENS BOOK FAIR（ボローニャ）	BEIJING BOOK FAIR（北京）
BOOK EXPO AMERICA（米国）	TAIPEI BOOK FAIR（台北）

お問い合わせ：株式会社ジェイワールドトラベル

JATA正会員（観光庁長官登録旅行業第1359号）

TEL:03-3402-9955 / FAX:03-3402-9698 担当：藤代

URL:www.jw-trvl.co.jp / E-mail:tet@jw-trvl.co.jp

その他、早割り航空券やビジネス・デスカウトの手配や国内出張なども取り扱っております。